

# 街道を歩く

## 正徳寺跡

正徳寺は聖徳寺とも天文21年(1553)4月齊藤道三と娘(濃姫)婿信長が会見した寺。聖徳寺は今は名古屋市天白区八事山にある。



## 左吾平遭難碑

吉藤村の馬方左吾平は孝行息子で近所の評判だった。ある時、播州明石藩主松平齊宣候の行列が通過する時馬が暴れ行列に飛込んだ左吾平は馬をとり抑えようと行列に飛込んだため無礼打ちにあった。これを知った尾張藩は御三家筆頭の威信にかけ清洲本陣に泊っていた齊宣に抗議した。以後明石藩の尾張領通過は夜間、葬儀の装いでのみ許可されたという。



## 本陣跡(萩原宿)

本陣は代々森権左衛門が世襲していた。寛永年間に森権左衛門は日光川と西之川一帯の新田開発に尽力した。脇本陣は森半兵衛が代々勤め庄屋も兼ねる。



## 問屋場跡(萩原宿)

上町と下町に問屋場があり、二日交代で継立を行っていたという。上問屋は鵜飼家、下問屋は木全家が勤める。



## 正瑞寺

富田の正(聖)徳寺の末寺。蓮如上人巡行の際天台宗から浄土真宗に改宗。寺の当主は小笠原氏。応仁の乱のとき美濃からこの地に逃れてきた小笠原兄弟の関係もあり、旧家には小笠原の姓が多いという。



寺に伝わる話として、寺の西側を流れる日光川は又の名を古川といい暴れ川であった。当時の住職は川に棲む龍を鎮めるために寺宝の刀を川に沈め、以後水難を逃れることができたという。

## 中島城址

美濃路7宿-④

## 美濃街道: 04 稲沢(石橋)ー萩原一起

本陣は代々加藤家が勤め、問屋を兼帯していた。加藤家は関ヶ原合戦の際、福島正則が木曾川を渡る時手助けをしたことで本陣職を与えられる。11代加藤磯足(1743-1809)は村政や木曾川堤の普請に功績があったばかりでなく本居宣長の門人としても知られ、宣長を招き歌会、細井平州を招き講演会を開くなど文化人でもあった。

## 駒塚への道標

尾張藩家老石河佐渡守が駒塚(羽島市)から名古屋に出る近道として享保11年(1726)駒塚の須賀から渡船場の道を拓いたのが始り。享保15年に舟で富田に渡り美濃路に合流し名古屋へ行く。



## 富田の一里塚

富田の一里塚



## 脇本陣跡(歴史民俗資料館)

寛永18年(1641)に設けられる。佐太郎一族が4代まで勤める。享保5年(1750)林浅右衛門が譲り受け代々受け継ぐ。林家は船匠屋と村庄屋を兼ねていた。現在の建物は明治の震災で倒れ再建されたもの。庭園とともに市の歴史民俗資料館となっている。



## 笠懸社

日本武尊が伊吹山への途次この松に笠を懸けて休息されたとか

## 七つ石

日本武尊が伊吹山への途次この七つ石で剣をとがれたとの伝説。



垂仁天皇の姫、倭姫が天照大神の御杖代として坂田宮ー伊久良宮を経てこの地にしばし留まったという推定地の1つ。元は八剱社と呼ばれていたが大正になって改名。

## 長隆寺

平安時代創建。豪族中嶋城主中嶋蔵人光敏が菩提寺とし、南北朝時代には南朝の拠点、焼失、応永年間(1394-1428)再興、荒廢。寺宝に五大明王画像、阿彌陀三尊像がある。近くの妙興寺は中嶋一族のものが僧となり建立した古刹。

元は光堂橋。橋近くに見事な仏閣があり光堂と呼ばれていた。

## 高木橋

このあたり立場茶屋があった

## 中嶋宮

中嶋

## 西御堂

街道筋

稲沢中島水道企業団

石橋

石橋南



## 長隆寺

平成 17 年 09 月 5 日

あきやま